

笑顔の節分!!!

阿吽

慈恩の里広報誌『阿吽』
第 27 号
3 月 1 日 発行
責任発行者 坂井 淳



楽しい豆まき



2月3日に節分行事が行われ慈恩の里に笑いと歓声が響きました。
職員ふたりが赤鬼と青鬼の仮装をし、各ユニットに訪れ利用者様に今年1年が

鬼はそと〜



福はうち〜

縁起の良いものとなるよう「鬼は外く福は内く」と叫んで頂き、鬼たちに向けて豆を投げてもらい愉しんで頂きました。
突然、鬼が現れた事で驚



いている利用者様や、現れたのと同時に喜んで豆を投げつけている利用者様の様子が見られました。
居室にて臥床されている利用者様も多く居られましたが、鬼たちの姿を目の当たりにし、「わあ!」と叫び、「ありがたいね」「わざわざありがとうございます」等のお言葉を頂きました。
中には豆を鬼に投げつけることなく、そのまま豆を口にしようとしている優しい利用者様もありました。
今年は段取りが上手くできていかなかった事もあり、進行をスムーズに運んでい



けないような場面もありましたが、今回それを反省し、また来年の節分行事で利用者様に愉しんでいただけるよう精進したいと感じました。
(小林 耕文)



新年会

今年も新しい年を迎え新年を祝うためシヨートステイ、2階、3階の各フロアでは新年会を行いました。利用者の皆様も楽しんでいましたが職員も楽しんでいましたよ。

シヨートステイ

1月7日の火曜日昼、毎年恒例行事と化した『シヨートステイ新年餅つき大会』が、1階めあかんにて開催されました。

今年もビハーラボランティア様の協力のもと利用者の皆様も大いに盛り上がり、甘くて美味しいお汁粉で新年を迎える事が出来ました。毎年この時期は正月太り

を気にする頃ですが、お餅は別腹ゼロカロリーと言われ、今年も皆さま元気に過ごす原動力となったのではないかと思います。
(豊島 準平)



2階箱の中身は？

1月25日に2階フロアの新年会が開催されました。利用者様も参加できる行

事を考えて「箱の中身はなんだろな？」を行いました。
(次ページに続く)





(前ページからの続き)
 数名の利用者様に参加して頂き、箱の中身を当てようと必死に考える方、中身をすぐに当てて利用者様から「すごいね〜」と言われる場面も見られ皆様楽しんでいらっしゃる様子でした。
 最後には利用者様が民謡を歌われ無事終了しました。
 新しい年が始まるという事で利用者様には職員からメッセージカードも配られ喜ばれている様子でした。
 (深松 良)

3階



1月8日3階エレベーター前にて新年会行事の職員による餅つき大会を行いました。
 会場設営中から各ユニット

から利用者様が会場に足を運んで頂き、予想をはるかに超えるたくさんの利用者様が見に来ました。

時間になり司会の職員が開始の挨拶を高らかに宣言すると、湯気の立ったもち米が臼の中に入れられ、職

員が力強く杵で餅もつくと大きな声で「よいしょ〜」と何度も聞こえてきました。
 見ている利用者様も杵をつく職員も餅米もひっくり返す職員も汗をかきながら盛り上がりました。
 (磯尾 健人)

認知症研修会

1月20日慈恩の里多目的室において職員による認知症研修会が行われました。

この研修会は各ユニットから事例を持ちよって日ごろの認知症の利用者様に対しての

各ユニットの取り組みとそのケアの結果どのように認知症の利用者様の生活に変化があったのかを発表を行い、各々の認知症ケアの質の向上を図るために行われたものです。
特養全ユニットから10人の発表者がやや緊張した面持ちでそれぞれの認知症ケアの発表を行いました。

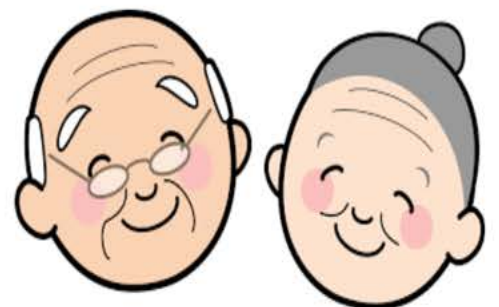
各発表は5分程度の発表でしたが発表者はそれぞれ利用者様に寄り添った愛情あふれるケース発表を行っていました。
優秀だった2ユニットは2月に行われた家族懇談会でケース発表を行いました。
(広報委員会)



みんな真剣に聞いてます



上手に発表してます



家族懇談会



たくさんのご家族の参加がありました



施設長も慈恩のTシャツです

2月15日土曜日、慈恩の里において、今年度の「ご家族懇談会」を開催しました。
毎年施設での取り組みと懇談の場を設け、信頼関係の構築を図る目的で実施しております。
今年度は、これから急速な高齢化が進み、今後認知症高齢者の増加に伴い、認知症ケアの重要性が問われて

おり、施設の取り組みとして、昨年7月に、樋口介護主任、堀井介護主任が認知症介護実践研修会に参加し、その内容として実際各ユニットにてケア実践を行い、その中から2事例を、施設の取り組みとして発表を行いました。
発表後には、職員との懇談の時間を設け、ご利用者の普段の様子や昔の生活さ

れていたこと等を伺うことができませんでした。
参加されたご家族からは「ユニットでの取り組みがとても分かりやすかったです。職員の皆様の熱意が素晴らしい」等温かいご意見を頂きました。
今後も、ご利用者にとって何が良いのかを第一に考え、ケアの実践をしていきたいと思っております。
参加された、ご家族の皆様本当にありがとうございます。

(吉成 雅弘)



施設での新型コロナウイルス対策

現在、各地で新型コロナウイルス感染症が確認され、特に北海道での感染者数が増加しております。また高齢者、基礎疾患や高齢者においては、重症化しやすいとの見解もあります。

施設としては、感染予防対策として、外部から「持ち込ませない」「拡げない」「持ち出さない」ことを念頭に置き、現在ご家族等の面会の制限をさせていただいております。皆様には今後も終息に向けてご協力頂きますようお願いいたします。

感染対策として、施設で取り組んでいることを、報告致します。

①ご利用者、職員の体温測定の実施

- ・ご利用者には毎日体温測定をしております
- ・すべての職員は出勤前に体温測定を行い、発熱等の症状がある場合は出勤しないようにしております。
- ・ショートステイご利用者様には、利用前に自宅にて体温測定を行って頂き、37.5℃以上の場合には、ご利用を控えていただくようお願いしております。

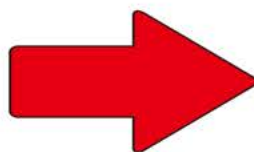


②午前 午後と、手すりの消毒をしております。換気もしております。

③面会の制限

- ・特養に入居されている方に、届け物等があれば、事務所にてお預かりいたします。
- ・ご家族送迎で、ショートステイご利用の際には、玄関先で、職員がお部屋までご案内致します。

④職員、マスクの着用、1ケア1手洗い、アルコール消毒の徹底を行っております。



二人羽織に大笑い

12月22日、北高吹奏楽部の皆様が施設にいられ演奏会を行う予定でしたが、イ

ンフルエンザの影響により中止となり、急遽2階職員主催のクリスマス会を実施



致しました。

前半の余興は『二人羽織でお食事を頂きます』後半は『炭酸一気飲みで都道府県全部言ってしまおう』を実施しました。

二人羽織では後ろの職員が食べている職員の顔にケーキを塗ったり、フォークを刺したりして、それを見た利用者様が大笑い。炭酸一気飲みでは何度もゲップを飲み込んだり、鼻

からジュースが吹き出たりしました。

その中でも樋口主任はゲップをせずに47都道府県を言い切りました。

参加された利用者様からも「楽しかったよ」と、年末に皆さんで大笑いをしました。(森 佳奈子)



編集後記

編集作業を行っている3月のはじめ、帯広の長い冬がやっと終盤に差し掛かったと思われる気温になってまいりました、記事の内容にありましたようにクリスマスコンサートはインフルエンザのため中止になりました。

また、現在は新型コロナウイルスが猛威を振るっており北海道に緊急事態宣言が発令されています、施設も面会の制限等予防対策を行っています。

ご家族の皆様にはご迷惑をおかけしていますがどうか皆様もお気を付けてください。

(行事・広報委員会)

